

## 「令和元年青森県鉱工業生産指数年報」の公表について

「令和元年青森県鉱工業生産指数年報」は、令和元年 1 月から 12 月分として公表した「青森県鉱工業生産指数(速報)」を年間補正後の確定値により取りまとめたものです。

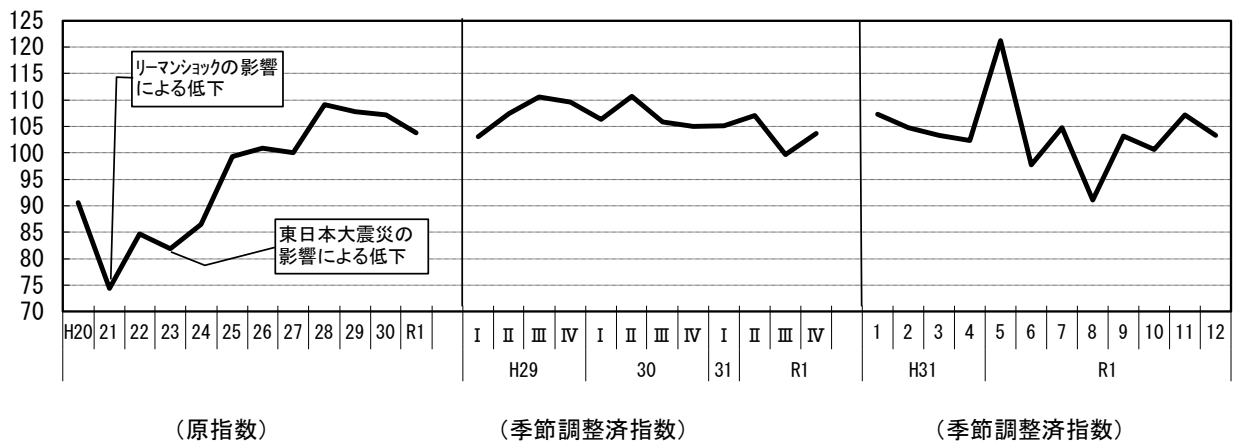
指数の作成に当たっては、平成 27 年を基準年（平成 27 年＝100）とし、県内で生産される 141 品目を採用しています。

### 1. 概況

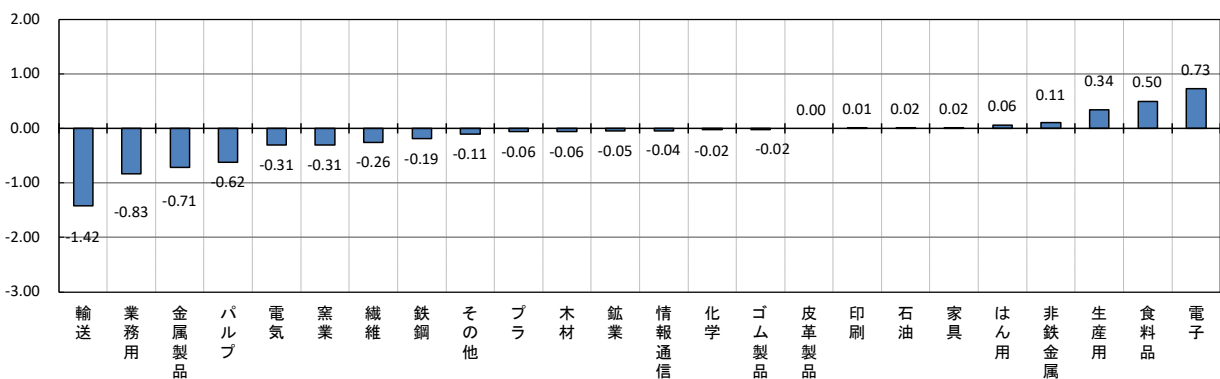
令和元年の青森県鉱工業生産指数は 103.8（原指数：平成 27 年＝100）で、前年比 3.2%の低下となり、3 年連続で前年を下回りました。

〔・上昇に寄与した業種…電子部品・デバイス工業、食料品工業、生産用機械工業等の 9 業種  
・低下に寄与した業種…輸送機械工業、業務用機械工業、金属製品工業等の 15 業種〕  
四半期別（季節調整済指数）で見ると、第 I 四半期は前期比 0.1%の上昇、第 II 四半期は同 1.9%の上昇、第 III 四半期は同 6.9%の低下、第 IV 四半期は同 4.0%の上昇となりました。

第 1 図 青森県鉱工業生産指数の推移（年：原指数 / 四半期、月次：季節調整済指数）（平成27年=100）



第 2 図 令和元年 業種別対前年寄与度



## 2. 業種別の動向

業種別では 9 業種が上昇、15 業種が低下しましたが、本県における主要 6 業種の動向をみると、上昇したのが、電子部品・デバイス工業（対前年比 5.0%上昇）、食料品工業（同 2.2%上昇）、低下したのが、輸送用機械工業（同 22.4%低下）、金属製品工業（対前年比 12.8%低下）、パルプ・紙・紙加工品工業（同 10.2%低下）、業務用機械工業（同 9.7%低下）となりました。

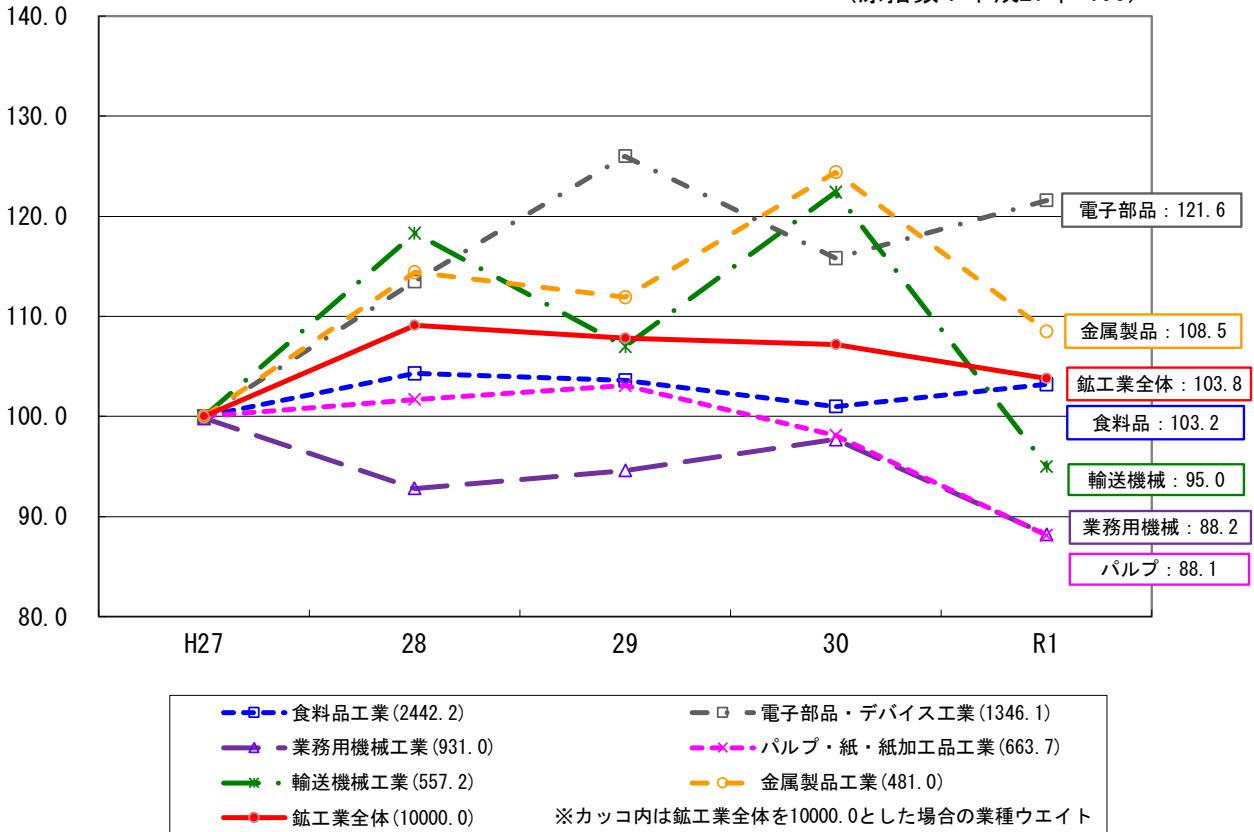
第 1 表 青森県鉱工業生産指数 業種分類別推移

(原指数：平成27年=100)

	平成30年	令和元年	令和元年 対前年比 (%)	主な変動寄与品目	
				上昇	低下
鉱工業	107.2	103.8	-3.2		
製造工業	107.3	103.9	-3.2		
鉄鋼業	102.7	95.0	-7.5	フェロアロイ	鉄鉄鋳物、普通鋼小型棒鋼
非鉄金属工業	105.4	108.9	3.3	亜鉛	銅被覆線、非鉄金属合金粉末
金属製品工業	124.4	108.5	-12.8	製缶版(金属板加工)、鉄塔	鉄骨、作業工具
はん用機械工業	76.0	85.1	12.0	除雪機	工業窯炉・同部分品
生産用機械工業	275.2	288.5	4.8	真空装置・真空機器、プラスチック製金型	ロボット、同装置の部分品・取付具・附属品
業務用機械工業	97.7	88.2	-9.7		事務機械器具部分品、カメラ用交換レンズ
電気機械工業	100.9	93.8	-7.0	制御装置	電気測定器、小型電動機
情報通信機械工業	148.5	138.9	-6.5		カーナビゲーションシステム
電子部品・デバイス工業	115.8	121.6	5.0	コネクタ、水晶振動子	センサー関連部品、半導体集積回路(IC)
輸送機械工業	122.4	95.0	-22.4		鋼船、自動車部品・附属品
窯業・土石製品工業	93.5	85.4	-8.7	砕石	PCコンクリート製品、道路用コンクリート製品
化学工業	85.4	85.0	-0.5	医薬品原薬	その他の有機化学工業製品、化成肥料
石油・石炭製品工業	71.1	77.2	8.6	舗装材料	
プラスチック製品工業	82.6	76.7	-7.1	プラスチック発泡製品	プラスチックフィルム・シート、工業用プラスチック製品
パルプ・紙・紙加工品工業	98.1	88.1	-10.2	段ボールシート	塗工紙
繊維工業	76.0	69.7	-8.3	ニット製アウターシャツ類	織物製外衣、ニット製靴下
食料品工業	101.0	103.2	2.2	レトルト食品、その他の水産食料品	単体飼料(魚粉)、清酒
その他工業	98.3	95.2	-3.2		
ゴム製品工業	90.1	79.2	-12.1		工業用ゴム製品
皮革製品工業	81.5	81.9	0.5	革製履物	
家具工業	98.9	102.0	3.1	木製家具	プラスチック製家具
印刷業	98.7	98.9	0.2	凸版・平板印刷物	
木材・木製品工業	87.6	82.8	-5.5	木材チップ	住宅建築用木製組立材料、一般製材
その他製品工業	117.6	101.3	-13.9	木製パレット	看板、畳
鉱業	102.7	95.4	-7.1		石灰石

第3図 主要業種の生産動向

(原指数：平成27年=100)



【用語の説明】

(1) 原指数

指数作成用データをそのまま指数化したもので、原指数により動向をみる場合には前年同月比が主に使用されます。

(2) 季節調整及び季節調整済指数

季節調整とは、景気変動（生産の変動）をみるため、1年間の周期をもつ規則的な要素（四季の変化からなる自然要因、盆・正月などの社会的慣習、決算期などの商慣行の社会要因等）を調整することです。鉱工業生産指数の場合は、季節指数を算出し、それで原指数を除することにより季節調整を行います。季節調整を行った指数を「季節調整済指数」といい、季節調整を行うことによって前月との比較や景気変動を把握することができます。

(3) 寄与度

鉱工業全体の上昇または低下に対して、各業種がどれだけ影響を与えたものか示す値です。

(4) ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、鉱工業全体を10,000.0とした構成比で示しています。ウェイトは付加価値額ウェイトで、「平成26年工業統計調査」等を基礎に算出しています。

(5) 前年比

前年と当年を比較して求められる比率で、変化率で示しています。前年同期比、前月比、前年同月比も同様に算出します。

$$\text{前年比} \quad \dots \quad (\text{当年指数} - \text{前年指数}) / \text{前年指数} \times 100$$

「例」 R1 食料品工業 前年比  $\dots (103.2 - 101.0) / 101.0 \times 100 = 2.2$  (小数第2位を四捨五入)